

平成29年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 議事録

1 開催日時 平成30年2月5日(月) 10:30～11:30

2 開催場所 天神スカイホール 16階 ウェストルーム

3 会議次第

- | |
|---------------------------|
| 1 開会 |
| 2 挨拶(健康医療部長) |
| 3 議題 |
| (1) 会長・副会長の選任について |
| (2) 福岡市民の歯科口腔保健の現状と課題について |
| 4 閉会 |

4 出席委員 14名
欠席委員 6名

5 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無

6 議事概要(次頁以降のとおり)

事務局	<p>【議事（１）：会長・副会長の選出について】 委員の互選の結果、会長に山下委員，副会長に神田委員を選出。</p>
事務局	<p>【議事（２）：福岡市民の歯科口腔保健の現状と課題について】資料に沿って説明。</p>
副会長	<p>まず、歯科健診の健の字と、歯科検診の検の字の使い分けをはっきりしたほうがいいのではないか。次に、最近は口腔機能ということが注目されているが、昨年度の骨太の方針の中でも、成人期以降の歯科健診の充実と口腔機能の管理について取り上げられている。口腔機能の検査を全国で統一するために、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。」「お茶や汁物などでむせることがありますか。」「口の渇きが気になりますか。」の3項目があるが、これは非常にざっくりとしている。福岡歯科大学のブランディング事業の中で口腔機能を取り入れるようになってきていると思うが、口腔機能との関わりをもっときっちりと調べたほうがいいと思う。口腔機能の中でも特に、摂食機能障害が非常に重要なポイントとなっている。摂食と嚥下とあるが、特に摂食機能障害に関しては、様々な影響を及ぼすということが分かっている。例えば、摂食機能障害が認知症の原因になることもあり、摂食機能障害から起こる口腔機能障害がオーラルフレイル、ロコモ、サルコペニアになっていくことも分かっている。即ち、残存歯が少なくなった時に補綴処置をきちんとやって食べられる状況を作る事によって、口腔機能障害から全身機能障害へ向かうのを予防できるシステムになっていることが非常に大事だと思う。例えば、調査によると、物を食べる、固い物を食べるという基準がよく理解されていないようだ。また、アンケート調査だけではなく舌圧検査等あると思うが、いかがお考えか。</p>
委員	<p>このJAGES調査に関しては、現在比較できるデータということで、口腔機能の自覚症状の部分のみ示されていると思う。実際にはこれだけでなく、調査項目としては、残っている歯の数や奥歯のかみ合わせとか、かみ合わせがない部分を義歯などで補っているのかといったことまで含めて、トータルで口腔機能としてみることをできると考えている。今後さらに包括的、総合的に判断できるようなものになれば望ましいと思っている。今回の調査対象者は約24,000人の方であり、口腔内の検査等をこの対象者に対して実現するのは難しいと思うが、今後、歯科医師会の会員の先生方に頑張ってもらいたいと思う。</p>
会長	<p>ただ今の副会長のご発言はもっともなご意見だと思うが、すべてを機械的に測定するのは難しいことで、質問で食べられるものはどのようなものかと具体的に聞くことによって、ある程度アンケート調査の中でも、どの程度の口腔機能があるかがわかると思う。本人の感覚的なデータだけではなく、具体的に「どういったものが食べることができるか」というような質問にすればデータの信頼性が上がってくると思う。JAGES調査は価値が非常に高いと思うが、アンケートだけに頼っているので、もし予算がつけば、この中からランダムにサンプリングして、実際の口腔の状態がどうなっているのか、質問の内容とアンケート結果との整合性が取れているかの確認をするような調査ができれば、さらに調査の価値が高まるのではないかと思います。ある程度口腔</p>

事務局	<p>内診査あるいは実際にお伺いした質問項目の内容とアンケート結果の内容とがあっていると分かれば、残りのデータの信頼性も上がっていくので、今回の調査の価値がさらに高くなると思う。今後福岡市で調査等ご協力をお願いしたいと思う。</p> <p>副会長からのご指摘の件で、歯科健診の健と検について、福岡市では、全体の考えと合わせて、お口の状態が健康かどうかチェックするときは健康の「健」の字を使い、歯周疾患といった特定の疾患にかかっているかどうかチェックするときは「検」の字を用いるようにしている。</p>
委員	<p>学校での歯科健診は、スクリーニングということが前提であり、歯科医院で歯科医師が口腔内を検査するときのように行うことはない。以前、学校歯科健診では短針を使用していたが、痛みがでた等の問題が起こった。今では学校歯科健診では、短針は使わないことになっている。通常、公でやる健診はスクリーニングということで実施することから、健康の健の「健診」だと思う。歯科医院で実施する検査とは違うということだ。</p>
副会長	<p>歯科節目健診はどちらになるのか。健康増進法の中の歯周病検診がメインだととらえていいのか。</p>
事務局	<p>歯周疾患検診という時は検査の検だが、福岡市の歯科節目健診の時は健康の健を用いる。また、先ほど説明したスライド資料において、「過去1年間に歯科検診をした者の割合の増加」のところでは、検査の検になっているが、国の歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の目標の記述に合わせている。</p>
委員	<p>平成28年に早良区で特別養護老人施設を開設した。福岡歯科大学グループのバックアップのもと、入所者の口腔管理を行っている。しかし、入れ歯の管理や抜歯時の説明、同意書の準備等対応が難しいことも多く、また、特に嚥下については突発的な事態も起こりうるため、施設において非常に対応が難しいと感じている。その中で皆さんのご苦勞はとても分かる。この会議は人が生まれてから高齢になるまでの間の幅広い歯科口腔保健の推進について話し合う場なので有意義だと思う。私も微力ではあるが協力出来ることが何かあればと思っている。地域の高齢者が集える場として、大学と共同でカフェを開き、つながりを持ち連携をしている。早い時期から歯科健診をして、高齢になっても良好な口腔内の状態を保てるようにすることが大事である。</p>
委員	<p>先ほど事業説明の中でご紹介いただいた、昨年からはまった福岡市歯科医師会と福岡市との共同の歯科節目健診の普及啓発事業だが、今年度から、チラシを薬局に置くだけでなく、患者さんに配布する際に声かけもするようにし、活発に活動している。実際にこの歯科医院に行こうかという時に、歯科医師会のホームページを開いて、希望の場所や、ご自宅の近くを案内したり、昔から通っている、かかりつけ歯科医がいれば、そ</p>

こに行ってもらったりしている。こうしたことで、受診率の向上に結び付けばいいと思うが、今後この事業を推進していくうえでこのやり方でいいのか、またなにか違う方法があればご教授していただきたい。

副会長

歯科節目健診は受診率が一番の課題だ。全国的に受診率は低い。今回のデータも数パーセントの低い受診の中から出てくるデータだ。まずは受診率を上げないといけないと思う。私の個人的な意見としては、5年に1回の健診ではいけないと思っている。年に1回は健診が必要だ。健診は歯科保健指導がある程度中心になっているが、悪いところを見つけるだけではなく、口腔内が健康な人には良い状態を維持・増進するためのものであることは以前より言われている。しかし、指導したモチベーションが続くのは3~4か月といわれている。なので、本当は3~4か月に1度の健診が理想だが、現状ではそういうわけにはいかないの、最低でも年に1回は健診を受けてもらうのがベストだと思う。歯科節目健診は老健法が始まりで、40歳から始まっているが、これは高齢期に向けての予防の意味だ。今の健診項目の中では、むし歯や歯周病が多いが、今後は口腔機能の項目も必要だと思っている。では、受診率を上げるにはどうすればいいのか。本来であれば、市民の方が自分で意識をもって受診いただくのがベストだが、歯科健診に関しては、その意識レベルが高くはない。学童期までは、受診率が95%以上なのでよいが、そのあと成人期、20代以降が問題だ。成人期ということは20~60歳であり、働いている人が多い。この時期の健診は大事であるが、現状は、この時期が抜け落ちてしまっており、この間に歯がなくなって、口腔機能が低下してしまっている。この時期の健診を充実させるのがベストだ。事業所健診の中では歯科健診の受診は義務ではないし、特定健診でも、歯周病は生活習慣病とはいわれているが、健診項目に入っていない。法的にそうならない。例えば身近なところで、福岡市の職員の9000人くらいいると思うが、節目の方には歯科節目健診を受診するようにしていただき、福岡市の企業でも歯科節目健診を広報して、節目の方に受診いただくようにするとよいと思う。薬剤師会も、1200人の会員がいると思うが、歯科節目健診の受診を進めてもらえたら、受診率が上がり、受診率が上がると自ずとデータが出てくる。そうすると医療費との兼ね合いも見ることができるようになり、結果とエビデンスができてくる。それを市民の方に還元することで、さらに受診率が上がると思う。今はそのとっかかりの段階にも歯科は達していないと思う。

会長

本来であれば、全国民が毎年歯科医院で口腔内を診査してもらうようなシステムができればよいが、すぐには難しいと思うので、1つのきっかけとして、歯周疾患検診が広まっていくのは大きなことではないかと思う。H25年の福岡市の歯周疾患検診対象者に行ったアンケート調査では、7%しか歯周疾患検診を知らなかった。さらには、歯科受診している人としていない人で認知度は変わらないという結果だった。歯科医院に定期的に歯科健診にきている人をベースとして、家族や友達に健診について伝達してもらおうと、そこを基軸として、広まっていくと思う。歯科医師会の先生方にはそういった、患者さんを媒体とした意識づけをしていただくといいと思う。また、薬剤師会に協力いただいて実施している周知の試みがあるが、こういった試みの効果については、同じようなアンケート調査をしてどの程度周知率が上がっているかを調べる必要がある。やったことに対して、結果を再評価して、効果についてみることで、モチベーションを上

委員	<p>げることにもつながっていく。協議会で議論した内容の結果が、そういった具体的な形で現れてくるようなことを目指していくべきで、そこから、ひとつひとつの解決策を見つけていくことが大事だ。</p> <p>昨年は看護の日に、JR 博多駅で市民向けのイベントを行った。その時に、健康相談にきた方が1,500人いたので、その場で歯科節目健診のチラシ配布をした。H30年度は福岡市内の会員に、会員向けの情報誌で歯科節目健診について広報し、協力していきたい。会員は就労者で、20代から60代という年齢層である。本協議会の他の団体においても、会報誌等あれば、そこで紹介いただくのも一つの手ではないかと思う。</p>
会長	<p>ぜひ各組織で、会報誌があって、歯科節目健診について広報できるということであれば、お願いしたい。どのようなものが魅力的なのかを考えて広報していくことで、受診率向上につながると思う。</p>
事務局	<p>会報誌への掲載については、発行の時期など分かればお声かけいただき、事務局で対応していきたいと思う。</p>